
雨

瑛彪・玄彪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨

【Nコード】

N1472B

【作者名】

瑛彪・玄彪

【あらすじ】

夕立のように、思いつきり降って、からりと上がる小話です。

上

におう・・・雨の、においだ。

がばりと、机につつぶしていた頭をあげた。

さすがは受験の天王山と云われる夏休みだ。予備校の教室内はしんと静かで、鉛筆のひっかく音だけが響いていた。・・・ただいま、自習時間の真っ最中。

窓も戸も締め切られている。どこから雨のにおいが入り込んできたんだろう。しかも、どうして雨のにおいとわかつたんだろう。

寝起きの頭でボウツと考えていると、サアツと窓が陰ってきた。周りが暗くなり、蛍光灯の光が刺さるような光線となる。せかされるように私は帰り支度をし、教室を出る。

がらりと戸を開けたら、外の空気を思いっきり吸い込む。その隙に生ぬるい風が、半袖の中の二の腕まで撫でまわす。すれ違った友人と、雨が降るぞ、降るぞ降るぞ、と云い合って別れる。すばやく自転車小屋に走りこみ、愛用のマウンテンバイクに飛び乗った。

案の定、雨が降り始めた。始めはボタボタと大粒がまかる程度だったが、神社の辺りになると雨音が身を包む。遙か向こうの鳥居まで一直線、黒い水玉模様になったアスファルトの参道が、チャリで進むにつれて黒く染まっていく。めーご橋にかかる頃には、雨は矢となって私を襲う。熱い地面で焼けた雨のにおいが鼻につく。気づくのが遅かったかな、という思いが胸をよぎった。

本降りになる前に、人の店の軒下でブレーキをかけた。息をついて外を見ると、ちょうど雨が激しくなったところだった。ギリギリだな。この調子だと通り雨のようだ。同じように降り込められてしまったおじさんが、道路の向かい側のアーケードの下で雨宿りをしている。しばらく待てば止むかもしれない。そもそも、あのまま教室でおとなしくしていれば通り過ぎた雨なのかもしれない。カッパを着るのも面倒だ。軒からしたたっていた雨水が細い滝になり、その数が見る見るうちに増えていく。

しかし、行こうと思った。何かが自分を呼んでいて、行かねばならぬ気がする。カッパを、仕込んでいたサドルの下から引きずり出した。前籠にあった荷物を背負い、カッパで体ごと包む。軒下からこぎ出だしたとたん、いっせいに雨粒があたりちらしてきた。まるで全身、血行促進マッサージをされているようだ。

図書館のところにくると、カアツと日が照ってきた。しかし雨は降り止まない。天気雨というやつである。なんてこつたい、狐の嫁入りにまきこまれたんかい！と空を仰ぐ。右手はスカツと青空、左手はどんより雨空、だった。

まぶしい陽射しの中を雨に打たれながら行くのは、ものすごく妙な気分だ。休館日の図書館を左に曲がり、何が楽しくてこんなことしてるんだらうなあ、と思いながら、目の前にひらけた空を見上げた。

虹だ。

その時の感動を私は忘れない。すっごくでかい。びよ　ん
と空いっぱい、横に伸びている。飛び越すしたらハードル競技、
くぐるとしたらリンボードダンスだな。背負っている太陽があんまり
照らすもんだから、目の前の虹はつかめそうなくらい、くつきりそ
こに在った。まるで幻覚でないかのよう。

下

雨に打たれないと見えない虹がある、ということがわかった。教室の中にいたり、雨宿りしていると、見えないものもある。もちろん教室にいてしか得られないものもある。だけど、雨の中出てきてよかったと思う自分がいる。

雨に打たれてるだけでは、虹は見えない。雨に挑まれたとき、それにばかり気を取られて終わるのか、それを逆手にとって何かを始めるのか……。いずれにしても、雨の中、空を見上げる者が虹を見つけることができるのだ。

さあつと辺りが陰る。虹が急速に色を失い、消えていった。後ろを振り返ると太陽が小さな雲に隠れていた。青空にひとつだけ浮かぶ雲。またすぐに太陽が出てくるだろう。早く帰って、家の者に知らせてやろうと、チャリのペダルを踏み込んだ。思ったとおり、すぐに日が照ってきた。

しかし、虹は二度と現れなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1472b/>

雨

2010年10月9日14時31分発行